

国語教育

第113号

都小国研多摩地区研究会事務局

新たな研究主題へ 他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語教育

～1年次副主題「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる～

東京都小学校国語教育研究会
多摩地区研究会会長 山崎 尚史
(青梅市立第二小学校長)

東京都小学校国語教育研究会多摩地区研究会（以下 多摩地区研究会）会長の山崎尚史です。今年度も多摩地区研究会は、多摩地区の国語教育の充実につながる活動となるよう、会員と共に研究に力を尽くして参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、学習指導要領の全面実施から4年が経ちました。コロナ禍と重なり、思うような授業が難しい面がありましたが、制限がある中でも「単元づくり」「評価」に着目した実践を重ね、着実に質の高い国語授業を行ってきました。これまでの研究を土台に、本会の研究主題を新たなものとしていきます。都小国研と同様に、昨年度までの研究主題「未来を拓く国語教育の創造」から「他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語教育」1年次副主題「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる」とし、研究を深めていきます。国語科の学びを通して豊かな言語生活を実現できるよう、特に今年度は、「『言葉による見方・考え方』を働かせながら学ぶ」という視点で研究に取り組みます。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」には、「見方・考え方」について、「深い学びの鍵」として説明がされています。児童が言葉による見方・考え方を働かせながら学ぶ姿が授業の中で実現できるように、単元計画や具体的な指導の工夫をしていく必要があります。

また、「学びをつくる」には、子供たち自身の学びの自覚を高めていくという意味が込められている言葉です。

私たち教師自身も、子供たちの「学びをつくる」大きな役割を担っていることを意識して研究を進めていきましょう。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

多摩地区研究会は、主に多摩地区の学校に在籍し、「国語を学びたい」「国語教育の発展に努めたい」という思いをもつ先生方による研究団体です。現在、新たな仲間が増え、うれしい限りです。

「話すこと・聞くこと部」「書くこと部」「読むこと部」の3つの部で構成され、研究授業を通して成果を発表しています。コロナ禍による制限も緩和されてきたので、広く公開していく予定です。またリモートによる月例会などは継続し、広い多摩地区での参加がしやすいようにしています。

10月には「多摩まなび塾」を開催し部員以外の皆さんにも、国語を学ぶ機会を設けています。

機関紙「国語教育」を年3回発行し、研究の成果を発信しています。また都小国研のホームページ中の多摩地区のページの充実にも取り組んでいます。右のQRコードを利用し、アクセスしてみてください。

多摩地区研究会に興味のある方、お気軽に事務局までご連絡ください。一緒に学びませんか？



令和5年度 都小国研多摩地区研究会 総会報告

令和5年度都小国研多摩地区研究会総会が、5月22日(月) 青梅市立第二小学校で開催されました。

- 1 挨拶・来賓紹介 都小国研多摩地区研究会会長 山崎尚史
- 2 議事 (1) 令和4年度活動報告 令和5年度活動計画
(2) 令和5年度役員・事務局承認
(3) 新会長挨拶

3 令和4年度活動報告

- (1) 話すこと・聞くこと部 主体的に話し、自己充実を目指す児童を育成する単元づくり

単元名 「知りたい、伝えたい、学校のよいところ」
授業者 多摩市立貝取小学校 栗原 優子 主任教諭
講師 東京都小学校国語教育研究会顧問 邑上 裕子 先生

教科書教材「わたしたちの学校じまん」をもとに、自分たちの学校のよいところを伝える活動を行った。伝える相手を他校(練馬区)の同じ3年生とし、オンラインを使って学校のよいところを伝え合うことを目的にした。研究では、評価活動に焦点を当て、「どのような力が身に付いたのか」について教師と共に児童自身が自覚し、自らの学習を調整する態度の伸長を図ることを目指した。そのための手立てとして、よい話し方の観点を児童と共に考え掲示したり、振り返りシートを活用したりした。また、タブレット端末を用いて自らの姿を客観的に見ることや友達とアドバイスをし合うことができるようにした。

当日の授業では、ペアのグループの録画動画を見て、それぞれのめあてが達成できているか、改善点はどこかをカードに書いて伝え合った。それをもとに、グループでよりよい発表になるように練習を重ねた。子供たちは、録画した動画を繰り返し見ながら、自分たちの課題を見付け、スピーチの練習をしていた。講師の邑上先生からは、個人のめあて(技能面)、グループのめあて(内容面)、両方をともに大切にしたい指導について考えていくべきことのお話をいただいた。また、児童の実態に応じて指導事項の中で重点化を図ることや子供たちが原稿に縛られず、伝えたいことを豊かに表現する力を伸ばしていくことを大切に、指導を工夫するべきことをご助言いただいた。

- (2) 書くこと部 児童の深い学びを目指す 主体的・対話的な書くことの単元づくり
単元名 「3年生のわくわくを2年生に伝えよう」～2年生に伝わるように書き表し方を工夫しよう～
授業者 八王子市立由井第一小学校 三道 博子 主任教諭
講師 東京都小学校国語教育研究会顧問 成家 亘宏 先生

3年生の面白さ(わくわくする出来事)を2年生に紹介する文章を書く活動を通して、伝えたいことを明確にしながら相手に伝わるように書き表し方を工夫する力を高める単元学習を行った。単元の導入で2年生の担任からの依頼文を提示し、単元のゴールに2年生への発表会を設定することで、よりよい文章を書こうとする意欲をもたせた。また、ウェビングマップや短冊など視覚的に分かりやすいワークシートを用いることで、自分の考えを整理したり、まとめたりさせた。更に、学習計画と振り返りチェックシートを一体化させることで、学習の見通しをもたせた。そのため、書くスピードに差が出やすい中でも、自らの学びを自覚し、調整しながら進められるように促すことができた。当日の授業では、文例を参考にして気持ちや様子を表す言葉、会話文などの詳しく書くためのポイントを確認し、組み立て表をもとに文章を書き進めた。子供たちが真剣に書き綴る様子が見られた。研究協議では、褒めるための評価の在り方、適切な交流の仕方について話し合った。講師の成家先生からは、わくわく感をどのように表現させるのかについて、学校にとどまらず、家庭、地域などにも広げた題材選びをさせ、書く相手も個々に選ばせることで、より豊かな文章になる等、具体的にご指導いただいた。

- (3) 読むこと部 学びの質を高める、評価活動と指導の工夫
単元名 「和紙の世界 ～魅力を分かりやすくまとめよう～」
授業者 小金井市立第四小学校 田邊 寿子 主任教諭
講師 東京都小学校国語教育研究会顧問 井出 一雄 先生

自分で学習を進めることができる単元計画と児童が主体的に学習に取り組むための評価活動の充実に重点をおいて研究を進めた。本単元では、家の人に和紙の魅力を紹介するという要約する目的を明確にして要約の必要性を実感させ、要約の手順を確認しながら目的に沿って、学習材を要約させた。その中で、児童自身や友達が見つけた要約する際の工夫を「要約のポイント」としてまとめ、それを学級で共有しながら、要約の仕方の定着を図った。そして、共有した「要約のポイント」を基に要約した文章を読み直し、加筆修正することでよりよい要約を目指した。評価は、第二次で学んだ要約のポイントを生かし第三次の要約で活用できるか、など要約の力の変容で見取ることとした。講師の井出先生からは、説明的な文章で論理的思考力を育むことの大切さ、日常生活での要約する力の必要性を教えていただいた。さらに、評価活動の工夫として、学習成果から児童にどのような力が身に付いたかを評価すること、教師が学習(まとめごと)の振り返りを点検すること、特に全体共有時の教師の価値付けの大切さとして、これだけは全員に気付かせたいことを押さえることと新たな視点(新たな気付き)を加えることが大切であるとご指導いただいた。

(1) 令和4年度多摩地区研究報告について

○話すこと・聞くこと部

- ・他校の児童とそれぞれの学校の良さを伝え合うという単元づくりがよかった。特色の違う学校を選んだことは、自校の良さを改めて捉え、伝えたい、聞きたいという意欲を引き出すとともに、相手意識をもって、話す内容を精査することにつながる。
- ・児童同士のアドバイスは、めあてを互いに確認し、何を目標しているかをお互いに理解しながら行うことが大切である。繰り返し取り組むことで、力が付いてくる。
- ・タブレットを活用することで、教師は活動の様子や児童の表情などの評価ができ、児童も自己評価がしやすくなる。上手に生かしていきたい。

○書くこと部

- ・自分の心が動いたこと(3年生のわくわく)を2年生に伝えるという学習活動の設定や、単元のはじめに依頼文を提示して意欲を高める工夫などにより、児童が自己の経験を生かし、プラス思考で取り組める内容になっていた。
- ・異なる時間や場所にいる人にも伝えられる「書くこと」のよさを生かして、自分の思いが伝わってよかったという実感をもたせられるようにしたい。
- ・書く内容や進度に差がしやすい「書くこと」においては、児童が見通しをもって取り組み、伝えたい内容に応じて学習を振り返り、自分で内容を精査できるようにしていくことが大切である。例文などを通して、児童が良い文章のイメージをもって取り組めたことがよかった。

○読むこと部

- ・要約する手順とポイントを分けて指導しているのが分かりやすくよかった。
- ・「要約」は大事な学習内容だが、教科書を見ると思いのほか学ぶ回数が多い。光村図書の年間指導計画では、4年生で重点的に学ぶことになる。繰り返し指導することを視野に入れて、児童が要約する必然性を感じられるように、児童の生活とどのように結び付けて伝えられるか考えさせる必要がある。
- ・他教科との横断的な学びを意識しているのがよかった。国語科で身に付けた「要約する力」を、他教科でどのように生かすことができるか考えさせ、他の場面でも活用できるように促したい。

(2) 講演「今年度の都小国研の研究の方向について」

①活動の目的について

都小国研の活動の目的は、国語教育の理念と実践について研究し、東京都小学校国語教育の推進と発展に寄与することである。国語の学習が好き、夢中という児童を増やすことと、国語教育について学びたい、研究は楽しいという教師を増やすことを目指し、昨年度は、ホームページの充実や研究紀要や機関誌「国語教育」等のデジタルデータ化などを行ってきた。今後も個々をつなぐ活動の活性化を図っていく。

②研究主題について

令和8年度の全小国研東京大会での発表を見据えて、研究主題を「他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習」と設定し、令和5年度から7年度の3年間を見通して研究に取り組んでいく。今後の研究の深まりで、副主題を多少変更していくことも考えられる。

③子供たちを取り巻く環境

「115万8901」とは、なんの数字だろうか。一人が一生のうちに使う書籍購入費の試算結果だそうだ。そのうち、22%が電子書籍代であり、時代を反映しているなど感じる。人気アニメ番組に残っているような黒電話や土管のある空き地などの日本の風景は、視聴していてすんなりと受け入れてしまうが、現在はお話の中だけのもので、子供たちの実生活とは異なっている。児童の日常生活、言語生活を、教師の幼少期の経験をベースに想像すると食い違いがありそうである。教師はその自戒をもち、児童に寄り添って、子供たちなりのわくわく、どきどきがどこにあるのか、一生懸命になれるのはどこなのか考えていく必要がある。

④今後求められる国語教育について

指導要領の国語科の目標を見ると、「想像力」という言葉が教科の目標に含まれるのは国語だけであり、それを養うことを一手に引き受けている教科ともいえる。変化している子供たちの言語生活をベースにして、学習指導要領も変わってきた。どのような言葉がどこで付け加えられたり、変わったりしてきたか、その変遷をたしかめる必要がある。その中で、29年改訂では、国語科の目標において「理解」することが「表現」することよりも前述されていることは注目すべき点である。ChatGPTなどのAIの活躍、グローバル化の中で、どんな理解力を培うべきか、児童にインプットすべき情報、体験活動はどんなものか精査することが大切になるだろう。踏襲するのではなく、人間としての価値、人間だからできることを見つめなおすことで、本当に児童が理解すべき内容なのか捉え直すとよいだろう。

これから大事にされることは、人間にしかできないことである。人間としての価値観や感性、オリジナリティー、さらに日本独自のものをより一層大切にしていきたい。文化を支えているのは、言葉である。日本独自の良さや文化を支えていけるように、国語科の果たすべき役割は大きいだろう。

資質・能力ということが強く言われている。先生方もそれを育てていこうと頑張っているが、時として「教え込もう」という指導になってしまうことがある。語彙指導も、その必要性や語彙の中にある琴線に触れる部分を大切に指導したり、学習活動にあった思考ツールやタブレットの活用を検討したり、日常生活に根差した読書活動を活性化したりすることで、深い学びの実現を目指したい。

「納得解」という言葉があるが、この言葉は学習の中で大切である。最後に児童一人一人が納得し、学び切ったと思えることが、児童の人生を豊かにすることにつながる。藤原正彦さんの言葉に、「深い洞察というのは、常に一人の呻吟によって生まれる。」というものがある。考えた先に深い洞察がある。それは、話合いで作っていくものではない。最後の最後は自分で考えるということが必要である。深い学びが実現しているか、学びの質を評価していくことが大事である。授業は一度きりのものではないので、系統性を生かして繰り返し取り組むことで、児童を伸ばしていきたい。

4 閉会の言葉

都小国多摩地区研究会副会長 前田 元

令和5年度役員・事務局

会長	山崎 尚史		青梅市立第二小学校校長
副会長	忍足 留理子	話すこと・聞くこと	府中市立府中第二小学校校長
	薄井 智美	書くこと	町田市立町田第六小学校校長
	前田 元	読むこと	西東京市立田無小学校校長
事務局長	加藤 美穂	書くこと	国分寺市立第五小学校
事務局次長	加藤 直美	読むこと	立川市立第五小学校
	田中 史子	話すこと・聞くこと	日野市立仲田小学校
事務局員	森永 佳代	話すこと・聞くこと	小平市立小平第八小学校
	宮崎 弘美	話すこと・聞くこと	狛江市立狛江第三小学校
	三道 博子	書くこと	八王子市立由井第一小学校
	山崎 由紀子	書くこと	国立市立国立第七小学校
	木村 千恵	書くこと	府中市立府中第六小学校
	白倉 裕子	読むこと	府中市立小柳小学校
	田中 静香	読むこと	立川市立第一小学校

【令和5年度多摩まなび塾のご案内】

日時 令和5年10月28日(土) 午前9時15分から12時まで

会場 府中市立府中第二小学校 京王線府中駅下車 徒歩10分

南武線府中本町下車 徒歩15分

問い合わせ先 立川市立第一小学校(042-523-4428) 田中 静香